

新宮山参り(下栗市)の一回行事

浦向墓地、實利行者祭 祝賀

実施日、平成27年(二〇一五)4月8日(土) 晴

山参参加者 川島 功・沖崎 吉信

正岡 憲明・瀧野 兼吉・司 小穂子

下江 穂子・岡 加予子・畑林 清子

奥村 順天・竹中 卓治

田中 徳昭(下栗市)

新副参加者

芥沢 清晃(埼玉県熊谷市)

ヨネヤマ ケイホ(イギリス)

以上 13名

地元浦向区のみぞ

村長上平 一郎(他)のり

又し旅りに行者祭に参加させて頂いた。

我々山参と実利(ヘッジカ)行者との関わりは

平成27年、佐田ノ江に行仙山山小屋と

建設した。28年前に遡る。

山小屋には水と火とが揃った。カノ目の

先ず、その水端際から始まった。カノ目の

探索では、数石の平へ下りて探り、見つけ

た。山小屋は数日の半は悲観し、かけて

いとものであった。

2回目には3人入り、実利行者の参りという

建(ヘッジ)の窟の方向に午を合わせ、実利の霊力

に絶り想いで、「何卒、水端を見に行かせ給え。

水端があれは行者堂と建て、後、行者と共に

実利行者を祀らせて置かう」と心に決めたのであった。

念可い、通ず、と言う諺の、建設する

何所の直下、峠の下部は除く地形である。

水溜りと荒見しとのであった。

其の処は、断崖絶壁で、その後、水端を懸

橋し、階段を設け、残道と架け、石、小、中、大

の子供達にも安心と上り下り出来る程と仕立て

らしたのであった。

ホニの課題は建設資金の募集である。

見積り予算、一、二〇〇万円に留めて、仲間達に種々の

に取組んで欲しいと呼びかけた。カネのこと、な

と、皆んな、上と踏んで、仲々、思いうようにお金

は集まらなかつた。敷地造成のほうも、ボツボツ

ひびき、少したつ、恰好のついでに、建設費を

引出すと、木下、棟梁に木の割り方を始めて

せよと共に、莫く金も、奔走する、あつても、こたも

と、金集めを敷地造成に没頭した。

棟梁も、能く、コツコツと、木と割り、天々の草草と



要らざる邪禱をとりぬるの中にありは

雨白の行事と崇拝して下るるものもあつた

本日の行者祭りも彼如くはこころは珍うし

い田舎の行事で行は御扱さるる下る面白

のつたに手あひくわつていた

泉軒(本名林善八)を慕うて毎年

絶えずこどもく道徳をしのび祭祀を司る

ことはいつことであつた。それだけ実利の

錢たる事跡は下る深しものひあつたらう

こころみまう。仙は祀り、祀り、証の上め

とまらう。 ヨシ

我々山房も行仙祖に上の。是、理と

擧げて行着や実利行着を拜する、

飛べりの我々も心よく思ふやうに「ヨシ」と

浦司のま々の信命心を心にこころも

造り出し、思ひて、解きし、の籠るるの御志

をなすべし、よと申すなりませう。お事の御志

らるるさかき御志は、お志は、お志とてなした

記事 玉岡



上平村長宅・表敬訪問



行者祭り会場



梅花講の人達による供養



新宮山彦ぐるーぶ参加者



式典後の餅捲き



実利行者の遺品展示



玉岡さんより特別参加者紹介



直会後の記念撮影